東洋英和女学院大学死生学研究所・(公財)国際宗教研究所 共催「生と死」研究会第18回例会

シンポジウム

死の受容と悲嘆のケア

2019年10月12日(土)14:40-17:50 司会 渡辺和子 東洋英和女学院大学教授 死生学研究所幹事

発題1 玉置妙憂 たまおきみょうゆう

一般社団法人大慈学苑代表理事

医療と宗教の協働
—両輪そろってこその穏やかな看取り

■ プロフィール
生まれた長男が重度のアレルギー症状をもっていたことをきっかけに、国立東京病院附属看護学校で学び、看護師、看護教員の免許を取得。その後、看護学校で教鞭をとる最中に、夫のがんが再発。夫は「がんを積極的に治療しない」方針をかためた。最愛の夫を"自然死"で看取ることになるが、その死にざまがあまりに美しかったことから開眼。高野山真言宗にて学んで僧籍を修得。現役の看護師として小岩榎本クリニックに勤めるかたわら、患者本人や家族、医療と介護に関わる多くの人々の心を穏やかにするべく、院外でのスピリチュアル活動を続けている。

■ 主要業績
『まずは、あなたのコップを満たしましょう』飛鳥新社、2018。『困ったら、やめる。迷ったら、離れる』大和出版、2019。『死にゆく人の心に寄りそう 医療と宗教の間のケア』光文社、2019。

内容紹介：
日本の医療は世界最高水準。在宅療養においても訪問診療、訪問看護、身体介護、生活介護とサポート体制は充実しています。でも、私たちは体だけでできているわけではありません。「たましい」があるのです。「たましい」の痛み、苦しみを放っておいては決して穏やかになれません。さて、現行のサポート体制の中に「たましい」のケアが組み込まれているでしょうか。台湾の取組みご紹介しながら、両輪そろった看取りを提案します。

発題2 高橋悦堂 たかはし えつどう

円通山普門寺副住職

私の死生"感"
—主に終末期緩和ケアと東日本大震災の活動から

■ プロフィール
宮城県栗原市一迫生まれ。曹洞宗大本山総持寺安居。駒澤大学仏教学部禅学科修了。曹洞宗総合研究センター教化研修部門研修課程修了。
東日本大震災後、火葬場での読経供養や仮設住宅などでの傾聴活動に参加。被災地での活動のなかで在宅緩和ケアの医岡部健氏と出会い、がんを患う岡部氏の最期の日々に寄りそう。その後、岡部医師らを中心に始まった東北大学の臨床宗教師研修に参加、2017年まで岡部医院の臨床宗教師として活動する。これまでの経験と学びを、僧侶としての務めや医療・介護、被災地、地域福祉等の多職種連携の現場に活かし、活動している。

内容紹介：
お寺での葬儀や法事、東日本大震災で被災された方々の心を聴く活動、在宅緩和ケアの臨床での患者さんやご家族の想い——生と死と、そこに関わる人々の想いが交わる場に私はいました。人の想いや都合、善悪などとは関係の無いところに生死、命はありました。その中で、人は、出会い、別れ、苦悩し、絶望し、怒り、恨み、悲しみ、嘆き、泣き、笑う。命とは、生と死とは、なんなのか。人の想いと、人の想いを超えたものと、それらが交わる場所をみなさんと考えてみたいと思います。

発題3 奥野滋子 おくの しげこ

順天堂大学医学部緩和医療学研究室

お迎えされて人は逝く
—終末期医療の現場から

■ プロフィール
金沢医科大学医学部卒業。順天堂大学医学部麻酔・ペインクリニック科学講座、総合病院衣笠病院ホスピス、神奈川県立がんセンター緩和医療科、順天堂大学医学部附属順天堂医院がん治療センターを経て現職。神奈川県藤沢市で地域医療に従事。医学博士。本学大学院人間科学研究科(宗教学分野)修了。人間科学修士。

■ 主要業績
『「お迎え」されて人は逝く』ポプラ社、2014。『対話する死生学 喪失とともに生きる』ポラーノ出版、2016。「安心して生き、死に切るということ—今改めて健康観について考える—」『死生学年報2017』リトン、2017。「高齢多死社会の看取り現場からの報告」『死生学年報2019』リトン2019。『今日も、「いのちの小さな奇跡」を見つめて』大和出版、2017。ほか

内容紹介：
死が近づくと、見えない人がそこにいるかのようにふるまい対話している患者を見かけます(お迎え現象)。そこは生者と死者の交流の場であり、亡くなった人の存在が力となり、「共にいる」「一人ではない」と感じることで死の恐怖が軽減するようです。一方「お迎え現象」を経験した遺族の中には、現世と来世を往来し死を超えてなお人は繋がっている、死は別れではないと感じる人がおり、「お迎え」が悲嘆ケアにもなっています。

❑ シンポジウム会場
東洋英和女学院大学大学院
(六本木) 201教室
東京都港区六本木5-14-40
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

❑ 最寄駅
六本木駅、麻布十番駅
❑ 参加費 無料
❑ 当日先着順100名様
❑ 事前申込み不要

〈予告〉 2019年 1月12日(土) 受付開始14：10
東洋英和女学院大学死生学研究所〈公開〉連続講座「死生学の未来」
第7回 三上 慧「木彫家橋本平八の精神と表現」
第8回 深澤英隆「哲学的主題としての死後生の問題—19世紀ドイツ、そして現在—」

Toyo Eiwa University
since1989